

1. 評価結果概要表

作成日平成19年 9月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0870800380
法人名	(有)モデンナ・ケアサービス
事業所名	グループホーム さわやか荘 龍ヶ崎
所在地 (電話番号)	茨城県龍ヶ崎市馴馬町3918-2 (電話)0297-61-1008

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年7月11日	評価確定日	平成19年12月17日

【情報提供票より】

(1)組織概要

開設年月日	平成 16年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 9人, 非常勤 6人, 常勤換算	5.6 人

(2)建物概要

建物形態	併設/ <input checked="" type="radio"/> 単独	新築/ <input checked="" type="radio"/> 改築
建物構造	木 造り	
	1階 建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1600×日数	円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有()	円	<input type="radio"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()	円	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1050 円		

(4)利用者の概要

利用者人数	18 名	男性	11 名	女性	7 名	
要介護1	5 名	要介護2	4 名			
要介護3	4 名	要介護4	3 名			
要介護5	1 名	要支援2	1 名			
年齢	平均	78.16 歳	最低	55 歳	最高	91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	根本医院 つくば双愛病院 とみやま歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ニュータウンへ向かう幹線道路から一步入った閑静な住宅地に位置している。ホームの入口は開放的であり、周囲の建物も違和感のないたたずまいである。玄関周りには季節の花が植えられており、近隣の方も気軽に立ち寄りやすい雰囲気となっている。実際、地域の方と触れ合う機会も多く、散歩でのコミュニケーションのほか、地域の小学校の校外学習の場としてホームを公開するなど地域の方の理解を深めるための活動も行っている。職員やスタッフ全員が、より利用者本位のケアを実現させるために日々の細かい情報をも共有化するように努め、ホームが一体となって向上のために取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果についてホーム内で十分に話し合い、日々のモニタリングに職員全員が参加し、介護計画を共有化していくことをさらに進めると共に、前回の課題であったモニタリング用紙の活用について書式を取りまとめるなどの改善を進めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員やスタッフの意見を取り入れながら記入されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者やホームの状況を報告すると共に、参加者からの意見を積極的に取り入れ、ケアの見直しや改善の参考にしている。今後は外部評価の結果も議題にしていく予定である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見や不安を意見箱や外部機関に表せるよう配慮している。また出来るだけ直接伝えてもらえるように、ホーム側から積極的にコミュニケーションをとるように努めている。出された意見等はミーティング時に職員間充分に話し合い、ホームの運営に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩や外出以外にも地区の夏祭りに参加したり、近隣の小学校に校外学習の場としてホームを提供するなど地域との連携をはかっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自に作り上げた理念を持ち、日々地域生活に根ざしたサービスを提供していくことを意識している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月2回の会議において理念を深める勉強会を行ったり、職員は名札の裏に理念を記入したカードを携帯するなどして、チームで理念を共有化しよう心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域ボランティアと定期的に交流を持ち、ホームの役割についての理解が深まるよう努力しており、地区の夏祭りへの参加、また近隣の小学校の校外学習としてホームを提供するなど地域住民との交流も盛んである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者が申し送りノートを参考に、職員の意見を取り入れながら記入している。また、外部評価の結果を職員全体で受け止め改善点を検討した上で、サービスの質の向上のための取り組みを日々行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況やホームの活動状況などを報告すると共に、参加者からの意見を聞き見直しや改善の参考にし、その経過も報告している。今後は外部評価結果も議題にしていく予定である。欠席された家族へは議事録のコピーを送り報告に代えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携は極めて密である。市町村が主催する会議や勉強会にも積極的に参加しており、相談や助言のやりとりは電話だけでなく直接行われることも多い。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回のお便りを発行しており、利用者の外出の様子や近況などを報告している。合わせて金銭の報告も行っている。その他に暮らしぶりや健康状況に変化があった時は随時連絡を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しており自由に意見等を記入してもらっている。市町村の苦情窓口等の紹介もしているが、出来るだけ直接話してもらえるように家族へ言葉を掛け、出された意見等については真摯に受け止め、その対応についてミーティング時に話し合っ確認している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者や職員の移動は最小限に押さえている。止む終えず移動や離職があった場合には利用者によく説明するよう心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、職員は定期的に研修に参加しており、参加しやすいよう勤務体制も配慮されている。また、職員全員が救命講習を受けている。研修の内容は会議の後の勉強会などで報告し、参加できなかった職員へのフォローを行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特にホーム同士の定期的な交流の場はないが、管理者やケアマネージャーは地域の施設に出向き、情報交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム内を見学してもらいながら、事前にサービス内容について十分に説明し、納得してもらえるよう配慮している。現在、ホームでのデイサービスは行っていないが、馴染みながらサービスを提供していけるように同系列のホームでのデイサービスを紹介し、状況を見ながらさわやか荘に入居してもらう場合もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とコミュニケーションを取りながら、自然に助け合えるよう配慮している。畑仕事や食事の準備や後かたづけなど、利用者が自主的に職員に教えたり、手伝ったりして作業することも多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者1人ひとりとの会話を大切にし、その会話から希望や思いを把握し、対応できるように職員同士で話し合っている。また、会話が困難な利用者についても、家族から話を聞いたり日々の本人の様子を見ながら、自然な環境の中で生活していけるよう配慮している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人から希望や思いを十分に聞き、家族ともコミュニケーションをとりながら要望を出してもらい、それらを反映できるような介護計画となるように、職員同士も話し合いアイデアを出し合っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の見直しにこだわらず、日々のケアの中で利用者の様子をチェックし、問題点があれば職員同士または利用者とも話し合っって対応を検討し、介護計画をこまめに見直している。また、必要があれば家族も交えて対応を相談することもある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じやすいようにケア体制を3人とし、状況によっては時間の制限無くマンツーマンで対応できるよう配慮している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則として利用者のかかりつけの病院へ継続して通院しているが、提携病院も必要に応じて利用しており、毎月健康診断を兼ねて往診してもらっている。救急時の対応についても連携の話し合いがされている。家族に対する受診報告も行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階から家族と話し合い、終末期のあり方についても書面の取り交わしを行っている。また、医療機関とも情報を共有化し、退院後の対応についても医療機関、職員、家族が相談しながら方針を決め、共有化するよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者1人ひとりの人格を尊重し、本人の返答能力に応じた質問方法や本人が思っている現実を否定することのないような会話を心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの行動が把握できるよう積極的に利用者へ声をかけている。利用者のペースや希望に添えるようにしているが、すぐに対応出来ない場合はきちんと待ってもらえるよう説明し、出来るだけ早く対応するよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者の希望を把握した上で決めている。きざみや味付けなど本人の体調も考慮して工夫している。準備や後片付けができる利用者には、職員と協力して行ってもらおうようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は一般家庭と同じ広さではあるが、かえって安心して入浴出来る利用者もいる。入浴時間に制限はなく、希望に応じて職員が対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活に張り合いが出来るように、本人の生活歴や日々の様子を見ながら職員が支援をしている。畑仕事や掃除、洗濯物たたみ、食器洗いなど本人の馴染みのある作業には参加してもらえよう見守っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ケア体制を3人にするなど本人の希望に対応しやすいように体制を整え、出来るだけ一緒に買い物に出掛けたり散歩に出たりしている。また、1人での歩行が困難な利用者には車椅子を用意し外出をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が常に利用者へ声を掛け、利用者の様子に目を配るよう努めており、居室はもちろん日中は玄関も鍵をかけていない。但し、居室の窓の開閉については安全面の配慮から制限している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練を実施しており、警察や消防への理解と協力を得られるよう努めている。また、日頃から地域の人々にも協力を呼びかけている。非常用の備品について毛布は充分にあるが、食料や飲料水については現在準備中である。	○	非常用の食料等についても出来るだけ早い時期に揃えて頂くのが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の健康状態に合わせて、栄養や水分を配慮している。また、食事形態も個々に対応している。食事量、水分量をバイタルと共に管理して利用者の日々の健康管理に役立っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は利用者が居心地良く過ごせるよう配慮されている。台所とリビングが続いており極めて家庭的である。また個々の共用部分も清潔に保たれている。壁等にも季節に合わせた飾り付けが施されている。建物の外にも手作りの椅子やテーブルを生かした憩いのスペース等が創られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具や備品は使い慣れた物を持ちこんでもらうように家族に説明されており、それぞれが過ごしやすい居室となっている。		